

# ～アイデアをカタチに モノづくりデザイン～

## 府中天満屋活用事業における官民連携事業

12月17日開催の第2回検討委員会で出た主な意見

### コンテンツへの意見

#### ◎波及効果をまず考える

- ▷最初から儲ける事は難しいが、人を集める事での周辺施設や天満屋内の店舗への波及効果が生まれる。ものを売る空間の天満屋、コトや経験を売る空間の行政エリア、これが市民に浸透することで双方利用してもらうことによって好循環を生む。
- ▷行政サービス機能などの義務的に人が来る施設、5G・学び・ものづくりなどの魅力があって人が来る施設、双方の相乗効果を持つ施設を作っていく必要性がある。

#### ◎事業者・企業などとの連携を行う

- ▷収益を上げる事業を行うならば、先進性のあるものを行わなければ事業者の目を引かないのでは。例えば、子どもと遊ぶロボットを5G環境を活かして行う。ワークウエアなどの市内産業のアウトレット販売、ネット販売を行うなど。
- ▷府中の特性を活かすために、ものづくりが学べるコンテンツも必要では。地元企業同士のつながりができ、地元産業の支援につながるのでは。
- ▷大型スクリーンを準備してリモートで他地域とつながるコンテンツはどうか。5Gを整備するのであれば、通信環境がよくホストスタジオとして利用料を収益とし活用が見出せるのではないか。

#### ◎方向性について

- ▷市民の人がこの施設を利用することで、何かにチャレンジするという場として考えている。
- ▷運営の方向性が分からない。基本的には公的施設のため、安価で利用できる、滞在できる、涼しい、暖かいというのがある。3年で収益が得られる機能や活用が見込めるのか。

### 検討するべきことへの意見

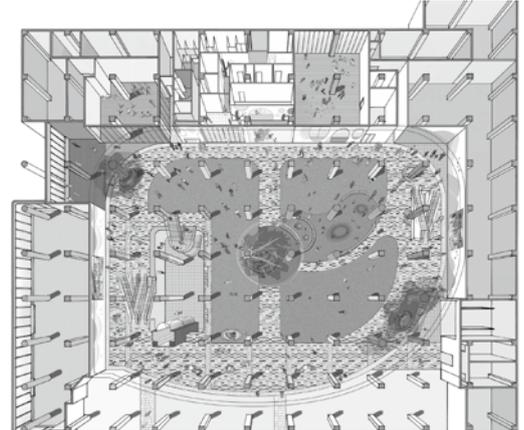
- ▷産官学協力して市内・市外のさまざまな年齢層の方々が利用できる仕組み作り。
- ▷クラウドファンディングや施設の命名権の検討。
- ▷他の施設との交通整理も必要。
- ▷コロナに配慮することも必要。にぎわいと相反するが、5G環境を活かして世界の人とのつながりを創出するのもニューノーマルなにぎわいになるのでは。

今回の検討委員会やこれまで開催したワーキングを受けて、いただいたアイデアや意見を参考にしながら、事業を進めていき、今後も継続的に事業者へのヒアリング、利用者へのアンケートを行っていきながら、施設などの成長プロ

グラムを意識した整備計画とします。

ネウボラなどの1期整備後には、今までのアイデアを進化させた事業実験を実施し、皆さんにも参加いただきながら、2期整備のコンセプトの学びとチャレンジを具現化していきます。

## 府中天満屋行政エリア 1期整備のイメージ図



### 府中天満屋2階を活用した にぎわい創出アイデア

#### ストリートピアノ設置

演奏によるにぎわいを創出することに特化せず、ネウボラを訪れた親子での連弾ができるような空間づくり

#### 壁面を活用したアートイベント

黒板アート、壁画アート、高校生による書道パフォーマンスなど

#### デジタルアート

名画に触れ、自由に動かし、芸術に触れる。静謐ながらも世界観を増幅させるプロジェクションマッピングの活用。

市の職員がアイデア提案を行いました。アイデア段階のもので、今後、実現の可能性を探っていきます。



屋内に整備予定の広場のイメージ